

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 沖縄返還協定批准書交換式

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43575

マイヤ、駐日大使挨拶

72-10R

一九七二年三月十五日

沖縄返還協定批准書交換式における

マイヤト駐日米大使のあつまつ

戦争の結果取得した領土々平和に

返還するとう名譽を構う国は、ほとんどありません。本日ここは、琉球諸島を日本へ返還するたあう条約の批准書と日本政府の閣僚者

USIS

〇〇〇〇

と交換し、この交換を確証する議定書に署名いたしましたことは、私のこゝ上もなつて示さすところであります。

九カ月前、私たちがここに、他の人々とはシントンに集まり、沖縄返還協定に調印しました。その際、ニクソン大統領は、「本協定は、その重要性のゆゑに、助言と同意を求めらるゝため上院に提出されることになつており、私は、上院に対し、かかる助言と同意を要請するつもりである」と申しました。

USIS

〇〇〇〇

13
米國が本日ここに寄託する批准書は、上院
外交委員会の全会一致の表決によつて表明さ
れ、上院本会議で大多数によつて承認され
よう。一九七二年五月十五日における日本
への沖縄返還にアメリカ国民が心から賛成し
てゐることを示すものであります。
沖縄は、^{日本}西国間の長い、悲劇的な戦争の終
末に米國の施政権の下に置かれたものですが、
西国は、自然、歴史、地理的位置からして、
最善の隣人であるべきであります。

U S I S

14
戦後、日米兩國は、このこと、^知記録破りの貿易、^的多様な^的往來によ
つて立証してまいりました。
米國が保持し使用することと許される土地
また、施設、日本が入手する土地および施設
など、返還のため詳細な取り決めにつづ
改めを申し上げる必要はないと思つて、こ
れらの事柄は、すべて公の記録に載つて
ることになります。

U S I S

本日、この下銘記をなすは、
は、協力し協調する二国がいかれたる業績
を達成するものと、このことであり、協力
と協調は戦争の終結を意味するものではなく、
より重要なことは、それが世界平和への踏
み石を固めるの間に望まぬといふ願望をも意
味します。

日本とアメリカは、この一歩を固く
こころを固くし、中絶政府の日本への
返還によって、わたわれ^{両国}の意欲の完全

U S S R

○ ○ ○ ○ ○

な、この一歩の固くし、
このこと、この一歩の固くし、
西国は発展途上諸国の前途に個別的にも大い
に助力をします、協力して助力した場合に
は、~~より~~より多くの成果をあげることができ
るのであります。

わたわれ^{両国}は、在り平和という目標に向かっ
て協力します、また協力していくものと、私は
も確信します。両国は協力して、西国の原料
神、テラノロピー、才能を協力して、わたわれ

U S S R

○ ○ ○ ○ ○

れは、より緊密に協力しなかり、共通の運命に向
かつて進むことがございます。
沖縄の返還は、沖縄と日本の子孫へのかね
てからの約束、すなわち沖縄に對する歴史主
権は日本に属するといふ約束を履行する行為
であります。ニクソン大統領も、「沖縄施政
権の日本への返還は、戦後の~~重要な~~出来事」
の極東政策の最も重要な業績の一つである」
と述べています。
わたしたちは、懸念と相互の利益という共通

USIS

の基盤に立つて、両国平和を目的とする、
努力を押し進めることとなります。
しかし、かといって、私は、アメリカ合衆国^(政府)
代表して日本政府との間に批准書交換し、
ここに約束のみにとどまり、なほいかに沖縄と日
本の子孫に對して、合衆国国民を代表し
て幸福な再統一を希望することをお祈り
申し上げることにしたいと思います。光栄とする
ものであります。

USIS

77-2R

一九七二年 三月 十五日

沖縄返還協定批准書交換式における

マイヤト駐日米大使のあいさつ

戦後、結果として、領土と平和の裡に

返還するところ、沖縄返還協定は、先上りのありきです。

りませう。本日ここには、琉球新報と日本へ返

還するものの集約の批准書と日本政府の関係者

協定

U.S.S.

と交換し、この交換を確証する調書に署名
いたしましたことは、私のこの上もなつて示
さすところでありませう。

九ヶ月前、私たちがこの場所に、他の人々とはフ

シントに集まり、沖縄返還協定に署名した

しん。その際、ニクソン大統領は、「本協定

は、その重要性のゆえに、助言と同意を求め

るため上院に提出されることになつています。

私に、上院に対し、かかる助言と同意を要請

するつもりでありませうと申しました。

出づる

U.S.S.

本日 一二三 七 銘記

[illegible]

五
達
成
下
之
日
か

と
協
同
は
軍
隊
の

正易

すゝてふ

米
国

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525

12
5
7
2
1

行

U
S
I
S

か
つ

活
年
7
?
ニ
と
と
リ
ま
し

傳

上
 中
 下

12

このてあいます

わたりふくむ

7

中 人

技術

U
S
I
C

[illegible]

沖繩の返還は、沖繩と日本のみとの間の
 問題であらう。沖繩は日本の領土に属するもの
 である。沖繩の返還は、戦後の平和条約の
 結果として行われるべきものである。

わんは、
鯉と相与の利をといふ

U
S
I
S

の甚難血に上つて、
力と相違あり
此等事相
に因つて、
一月を要す
其國の
政府

一七
か
い
主
一
二
、
私
傳
入
つ
て
~~た~~
金
銀
同
じ

代表として日本政府との間に批准書と交換し、

こゝに
おぼろの
みづを
な
た
い
沖
磯
と
日

本
の
子
を
い
ふ
に
は
一
つ
余
米
石
五
斗
三
升
一
合

て
平福は南張
下中戸給作の持来カ幸福何ものいふこと
不祈

東洋の牛乳とバター

も
の
り
ふ
い
ま
す
。

1. The first part of the paper discusses the importance of the role of the state in the development of the economy. It argues that the state should play a leading role in the development of the economy, particularly in the areas of infrastructure, education, and health care. The state should also play a role in the regulation of the economy, particularly in the areas of competition, labor, and environment. The state should also play a role in the distribution of income, particularly in the areas of social security and public housing. The state should also play a role in the provision of public services, particularly in the areas of education, health care, and social security. The state should also play a role in the provision of public goods, particularly in the areas of infrastructure, education, and health care. The state should also play a role in the provision of public services, particularly in the areas of education, health care, and social security. The state should also play a role in the provision of public goods, particularly in the areas of infrastructure, education, and health care.

USSR

100

1000

一九七二年三月十五日

沖繩返還協定批准書交換式における
マイヤー駐日米大使のあいさつ

戦争で得た領土を平和裡に返還するという光榮を有する国は史上まれであります。本日ここに、沖繩を日本へ返還するための協定の批准書を日本政府の關係者と交換し、この交換を確認する調書に署名いたしましたことは、私のこの上もない光榮とするところであります。

九カ月前、私たちはこの場所に、他の人々はワシントンにそれぞれ集まり、沖繩返還協定に署名いたしました。その際、ニクソン大統領は、「本協定は、その重要性のゆえに、助言と同意を求め、ため上院に提出されることになっています。私は、上院に対し、かかる助言と同意を要請するつもりであります。」と述べられました。

米国が本日ここにおさめた批准書は、上院外交委員会の全会一致の表決によつて表明され、また、上院本会議で大多数の支持をえて承認されたことに示されているように、一九七二年五月十五日に沖繩を日本に返還することに対しアメリカ国民が心から賛成していることを反映するものであります。

沖繩は、日米両国間の長い、悲劇的な戦争の末、米国の施政権の下に置かれたのでありますが、両国は、自然、歴史、地理的位置からいって、最善の隣人であるべきであり、戦後、日米両国は、このことを、記録破りの貿易、多様な知的交流、ますます増大する両国間の観光客の往来によつて立証してきました。

米国が使用するため保持することを許される施設区域、日本側が取得する設備、用地など、返還のための詳細な取り決めについては、改めて申し上げる必要はないのですが、これらは、すべて記録に残されていることであります。

本日、ここで留意すべきは、協調と調和のうちに活動する二国が現実にかに多くを達成できるかということであります。協調と調和は単に戦争の終結を意味するものではありません。もつと重要なことは、それが世界平和への足場を国々の間に築きたいという願望をも意味することであります。

日本と米国は、これを成し遂げました。沖縄の日本の施政下への復帰によつて、われわれ両国は真の意味での完全かつ、対等のパートナーとして協調と調和のうちに活動することとなりましょう。われわれ両国はそれぞれ発展途上諸国への援助の面で多くをなしとげることが出来ます。しかし、両国が一緒になれば一層多くの成果をあげることが出来るのであります。

われわれ両国は、世界平和という目標に向かつて協力しうるものであり、また協力していくものと、私は確信します。両国の国

民を結集して、両国の原材料、技術そして才能を結集して、われわれは、より緊密な関係に立ちながら共通の目標に向かつて進むのであります。

沖縄返還は、沖縄と日本のみなさまへのかねてからの約束、すなわち沖縄に対する潜在主権は日本に属するという約束を表現するものであります。ニクソン大統領も、「沖縄に対する施政権の日本への返還は、戦後のわれわれの極東政策の最も重要な業績の一つである」と述べています。

われわれは、繁栄と相互の利益という共通の基盤に立つて、世界平和に向つて、共通の努力を強く推進することが出来ます。したがって、合衆国政府を代表して日本政府との間に批准書を交換し、ここにお集りのみなさま、ならびに沖縄と日本のみなさまに対し、米国民を代表して再び一本の絆につながれる皆様の将来が幸福なものであることを衷心祈念することを、喜びとするのであります。

TEXT OF REMARKS OF UNITED STATES AMBASSADOR ARMIN H. MEYER
ON THE OCCASION OF THE EXCHANGE OF INSTRUMENTS OF RATIFICATION
OF THE OKINAWA REVERSION AGREEMENT
MARCH 15, 1972

To few nations falls the honor of peacefully returning territories acquired as a result of hostilities. It has been my happy privilege today to have exchanged with members of the Japanese Government instruments of ratification of a treaty to return the Ryukyu Islands to Japan and to have signed a protocol affirming this exchange.

Nine months ago we assembled in this place, and others gathered in Washington, to sign the Okinawa Reversion Agreement. On that occasion, President Nixon said: "Because of the importance of this Agreement, it will be submitted to the Senate for its advice and consent. I will urge the Senate to give its advice and consent."

The instrument of ratification which the United States deposits here this day reflects the hearty approval of the American people, as voiced by the unanimous vote of the Senate Foreign Relations Committee; as approved by a large majority of the elected representatives of all Americans in the Senate of the United States, of reversion of Okinawa to Japan on May 15, 1972.

Okinawa came under American administrative control at the end of a long, and tragic war between two nations which by nature, history and geographic positioning should have been the best of neighbors. Since

the war, we have proved this by our record-shattering trade in material goods; by the multiplicity of our intellectual exchanges; and by our ever-burgeoning growth in two-way tourism.

It is needless to recite the detailed arrangements for reversion: the lands or facilities which the United States will be permitted to retain for use; or the lands and facilities which Japan will obtain. These are all matters of public record.

What should be noted here today is the reality of the heights to which two nations acting in concert and harmony can achieve. Concert and harmony mean not merely an ending of war, but more importantly, a desire to build between nations a stepstone toward a world of peace.

Japan and the United States have achieved this. With the return of Okinawa to Japanese administration we may act in concert and harmony as full and equal partners in the truest sense of these terms. Separately, we can achieve much in helping to build the developing nations of the world; together, we can achieve more.

We can, and I believe, we shall work together toward that goal of world peace. Combining the peoples; the raw materials; the technologies, the talents of our two nations, we shall come closer together and move toward a common destiny.

The reversion of Okinawa fulfills a longterm promise to the people

of Okinawa and Japan: that residual sovereignty of Okinawa belongs to Japan. To quote President Nixon, "I believe the return of Okinawa to Japanese administration will be one of the most important accomplishments of our postwar policy in the Far East."

In our common bases of prosperity and mutual interests we can move forward in our joint thrust toward a world of peace.

It is with pleasure, therefore, that I have exchanged the instruments of ratification on behalf of the United States Government with the Government of Japan and, on behalf of the people of the United States, to convey to all assembled here and to the people of Okinawa and Japan our best wishes for a happy, reunited future.

TEXT OF REMARKS OF UNITED STATES AMBASSADOR ARMIN H. MEYER
ON THE OCCASION OF THE EXCHANGE OF INSTRUMENTS OF RATIFICATION
OF THE OKINAWA REVERSION AGREEMENT
MARCH 15, 1972

To few nations falls the honor of peacefully returning territories acquired as a result of hostilities. It has been my happy privilege today to have exchanged with members of the Japanese Government instruments of ratification of a treaty to return the Ryukyu Islands to Japan and to have signed a protocol affirming this exchange.

Nine months ago we assembled in this place, and others gathered in Washington, to sign the Okinawa Reversion Agreement. On that occasion, President Nixon said: "Because of the importance of this Agreement, it will be submitted to the Senate for its advice and consent. I will urge the Senate to give its advice and consent."

The instrument of ratification which the United States deposits here this day reflects the hearty approval of the American people, as voiced by the unanimous vote of the Senate Foreign Relations Committee; as approved by a large majority of the elected representatives of all Americans in the Senate of the United States, of reversion of Okinawa to Japan on May 15, 1972.

Okinawa came under American administrative control at the end of a long, and tragic war between two nations which by nature, history and geographic positioning should have been the best of neighbors. Since

the war, we have proved this by our record-shattering trade in material goods; by the multiplicity of our intellectual exchanges; and by our ever-burgeoning growth in two-way tourism.

It is needless to recite the detailed arrangements for reversion: the lands or facilities which the United States will be permitted to retain for use; or the lands and facilities which Japan will obtain. These are all matters of public record.

What should be noted here today is the reality of the heights to which two nations acting in concert and harmony can achieve. Concert and harmony mean not merely an ending of war, but more importantly, a desire to build between nations a stepstone toward a world of peace.

Japan and the United States have achieved this. With the return of Okinawa to Japanese administration we may act in concert and harmony as full and equal partners in the truest sense of these terms. Separately, we can achieve much in helping to build the developing nations of the world; together, we can achieve more.

We can, and I believe, we shall work together toward that goal of world peace. Combining the peoples; the raw materials, the technologies, the talents of our two nations, we shall come closer together and move toward a common destiny.

The reversion of Okinawa fulfills a longterm promise to the people

of Okinawa and Japan: that residual sovereignty of Okinawa belongs to Japan. To quote President Nixon, "I believe the return of Okinawa to Japanese administration will be one of the most important accomplishments of our postwar policy in the Far East."

In our common bases of prosperity and mutual interests we can move forward in our joint thrust toward a world of peace.

It is with pleasure, therefore, that I have exchanged the instruments of ratification on behalf of the United States Government with the Government of Japan and, on behalf of the people of the United States, to convey to all assembled here and to the people of Okinawa and Japan our best wishes for a happy, reunited future.



U.S. INFORMATION SERVICE
PRESS AND PUBLICATIONS BRANCH

PRESS RELEASE

ニュース速報

CAUTION: ADVANCE TEXT FOR RELEASE 3 PM MARCH 15, 1972

○ TEXT OF REMARKS OF UNITED STATES AMBASSADOR ARMIN H. MEYER
○ ON THE OCCASION OF THE EXCHANGE OF INSTRUMENTS OF RATIFICATION
○ OF THE OKINAWA REVERSION AGREEMENT
○ MARCH 15, 1972

To few nations falls the honor of peacefully returning territories acquired as a result of hostilities. It has been my happy privilege today to have exchanged with members of the Japanese Government instruments of ratification of a treaty to return the Ryukyu Islands to Japan and to have signed a protocol affirming this exchange.

○ Nine months ago we assembled in this place, and others gathered in Washington, to sign the Okinawa Reversion Agreement. On that occasion, President Nixon said: "Because of the importance of this Agreement, it will be submitted to the Senate for its advice and consent. I will urge the Senate to give its advice and consent."

72-10R

米国大使館 広報文化局

AMERICAN EMBASSY-TOKYO

- 2 -

○ The instrument of ratification which the United States deposits here this day reflects the hearty approval of the American people, as voiced by the unanimous vote of the Senate Foreign Relations Committee; as approved by a large majority of the elected representatives of all Americans in the Senate of the United States, of reversion of Okinawa to Japan on May 15, 1972.

○ Okinawa came under American administrative control at the end of a long, and tragic war between two nations which by nature, history and geographic positioning should have been the best of neighbors. Since the war, we have proved this by our record-shattering trade in material goods; by the multiplicity of our intellectual exchanges; and by our ever-burgeoning growth in two-way tourism.

○ It is needless to recite the detailed arrangements for reversion: the lands of facilities which the United States will be permitted to retain for use; or the lands and facilities which Japan will obtain. These are all matters of public record.

What should be noted here today is the reality of the heights to which two nations acting in concert and harmony can achieve. Concert and harmony mean not merely an ending of war, but more importantly, a desire to build between nations a stepstone toward a world of peace.

Japan and the United States have achieved this. With the return of Okinawa to Japanese administration we may act in concert and harmony as full and equal partners in the truest sense of these terms. Separately, we can achieve much in helping to build the developing nations of the world; together, we can achieve more.

We can, and I believe, we shall work together toward that goal of world peace. Combining the peoples; the raw materials, the technologies, the talents of our two nations, we shall come closer together and move toward a common destiny.

The reversion of Okinawa fulfills a longterm promise to the people of Okinawa and Japan: that residual sovereignty of Okinawa belongs to Japan. To quote President Nixon, "I believe the return of Okinawa to Japanese administration will be one of the most important accomplishments of our postwar policy in the Far East."

In our common bases of prosperity and mutual interests we can move forward in our joint thrust toward a world of peace.

It is with pleasure, therefore, that I have exchanged the instruments of ratification on behalf of the United States Government with the Government of Japan and, on behalf of the people of the United States, to convey to all assembled here and to the people of Okinawa and Japan our best wishes for a happy, reunited future.



広報文化局・報道出版部

PRESS RELEASE

ニューズ速報

一九七二年三月十五日

沖縄返還協定批准書交換式における
フイヤー駐日米大使のあいさつ

戦争の結果取得した領土を平和のうちに返還するという光栄を有する国は、史上まれであります。本日ここに、琉球諸島を日本へ返還するための条約の批准書を日本政府の關係者と交換し、この交換を確認する議定書に署名いたしましたことは、私のこの上もない光栄とするところであります。

九カ月前、私たちはここに、他の人々はワシントンに集まり、沖縄返還協定に調印しました。その際、ニクソン大統領は、「本協定は、その重要性のゆえに、助言と同意を求めるため上院に提出されることになり、私に、かかる助言と同意を要請するつもりである」と申しました。

米国が本日ここに寄託する批准書は、上院外交委員会の全会一致の表決によつて表明され、上院本会議で大多数によつて承認されたように、一九七二年五月十五日における日本への沖縄返還にアメリカ国民が心から賛成していることを示すものであります。

米 国 大 使 館 ・ 東 京 都 港 区 赤 坂 美 町 二 ・ 電 話 5 8 3 - 7 1 4 1 (代 表)

72-10R

沖縄は、日米両国間の長い、悲劇的な戦争の終末に米国の施政権の下に置かれたのですが、両国は、自然、歴史、地理的位置からいつて、最善の隣人であるべきでありまして、戦後、日米両国はこのことを、記録破りの貿易、多様な知的交流、ますます増大する両国間の観光客の往来によつて立証してきました。

米国が保持し使用することを許される土地または施設、日本が入手する土地および施設など、返還のための詳細な取り決めについては、改めて申し上げる必要はないと思ひます。これらの事柄は、すべて公の記録に載っていることであります。

本日、ここで銘記しなければならぬことは、協力し協調する二国がいかに大きな業績を達成できるかということであり、協力と協調は戦争の終結を意味するだけでなく、より重要なことは、それが世界平和への踏み石を国々の間に築きたいという願望をも意味します。

日本とアメリカは、こうした踏み石を築くことに成功しました。沖縄施政権の日本への返還によつて、われわれ両国は真の意味での完全な、対等のパートナーとして協力し協調することができるようになりました。われわれ両国は発展途上諸国の開発に個別的にも大いに助力できますが、協力して助力した場合には、より多くの成果をあげることができるのであります。

われわれ両国は、世界平和という目標に向かって協力で、また協力していくものと、私は確信します。両国民を結集して、より緊密に協力しながら共通の運命に向かって進むことができます。

沖縄の返還は、沖縄と日本のみなさまへのかねてからの約束、すなわち沖縄に対する潜在主権は日本に属するという約束を履行する行為であります。ニクソン大統領も、「沖縄施政権の日本への返還は、戦後のわれわれの極東政策の最も重要な業績の一つである」と述べています。

われわれは、繁栄と相互の利益という共通の基盤に立つて、世界平和を目ざす共同の努力を押し進めることができます。

したがって、私は、アメリカ合衆国政府を代表して日本政府との間に批准書を交換し、ここにお集まりのみなさま、ならびに沖縄と日本のみなさまに対して、合衆国国民を代表して幸福な再統一された将来のご多幸をお祈り申し上げることができることを、光栄とするものであります。